

2026 年度立教大学一般入試 「数学（理系）」入試問題 出題意図

数学（理系）では、大問 I の小問群、大問 II・III の論述問題、および数学科向けの大問 IV を出題した。出題範囲である数学 I、数学 II、数学 III、数学 A、数学 B、数学 C における数学的知識の正しい理解を測るため、各分野からまんべんなく問題を出題した。

特に、大問 I（小問群）では当該分野における計算能力を、大問 II・III では論理的根拠に基づいた数学的論述能力を測ることを目的としている。また、数学科向けの大問 IV では、数学科の学生に必要な論証力を測るための問題を出題した。

2月9日 実施分

- I. 複素数、確率、ベクトル、統計的な推測、図形と方程式の各分野について計算を正しく行えるかを問う。
- II. ベクトルに関する基礎知識を利用して、座標平面上の曲線の二つの接線のなす角の最小値を適切に求められるかを問う。
- III. 微積分に関する基礎知識を確認し、正確な計算力を測る。特に、無限級数の和と定積分の関係について問う。
- IV. 複素数に関する基礎知識を確認し、正確な計算力を測る。特に、数列の漸化式との関係から複素数平面における点の移動の様子を正しく把握できるかを問う。